【O-0490】

当院における結核性脊椎炎4 症例の検討

（医）腎不全センター幸町記念病院内科[1)]，国立病院機構岡山医療センター腎臓内科[2)]，川崎医科大学附属川崎病院透析センター[3)]
○高津成子（たかつ　しげこ）[1)]，岡　良成[1)]，宮崎雅史[1)]，太田康介[2)]，大城義之[3)]

2005 年 1 月から 2010 年 12 月末までの 6 年間に当院で結核性脊椎炎と腸腰筋膿瘍を発症し，治療した 4 症例を検討した．女性 2 例男性 2 例で，発症時年齢 53 歳～ 77 歳（平均 67 ± 10.4 歳），全例結核の既往歴はなかった．4 症例のうち 1 例は粟粒結核を併発し，他の 1 例はリンパ節結核を併発した．原疾患は糖尿病 3 例，妊娠腎 1 例であり，透析歴 0 ヶ月～ 11 年 7 カ月（平均 51.5 カ月）であった．初発症状は全例が腰痛と発熱であった．確定診断としては核酸 PCR が有効であったが，診断的治療が 2 例あった．診断がつくまでに 3 週間～ 2 カ月を要した．クオンティフェロンを施行した 1 例は陽性であったが，有効性の判定には今後の症例の蓄積が待たれよう．高熱や白血球増多という細菌感染との混合感染を疑う症例や，腫瘍マーカーが上昇した症例もあり，画像診断が診断には有用と思われた．